2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	聴解・聴読解(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担 当 教 員	中村　絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

上級レベルの聴解力を身につける。進学先につながる聴解力、聞いてわかったことを説明し、まとめることができるようになる。前半は留学試験、能力試験対策を行う。能力試験後はまとまりのある話を聴き、要点をまとめて口頭で伝え、メモを取る、ノートテイキングの力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

素点(定期試験):70%
出席評価点　　:20%
平常評価点　　:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『EJU　聴解・聴読解トレーニング』『N1聴解必修パターン』『合格できる日本語能力試験N1聴解部分』『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解』『聴解発表ワークブック』『ニュースの日本語聴解50』から抜粋、オリジナルハンドアウト使用

《授業外における学習方法》

将来の就職のためには「聞いて話す」「聞いてまとめる」ことは非常に大切です。聴解によるコミュニケーション力を高めるために普段から、日本語を聴く努力をしてください。

《履修に当たっての留意点》

選択問題だけができても将来の仕事では通用しません。全体の流れがわかり、正解のポイントをおさえることを意識してください。聞いてわかる語彙を増やし、進学先につながる日本語を身につけましょう。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　発音／留学試験対策　聴解・聴読解 パターンを知り、ポイントが聞くけるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	日本留学試験　聴解 N1　発音、課題理解(1)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　発音／留学試験対策　聴解・聴読解 パターンを知り、ポイントが聞けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	日本留学試験　聴解 N1　発音、課題理解(2)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　縮約形・課題理解／留学試験対策　聴読解 パターンを知り、ポイントが聞けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	日本留学試験　聴解 N1　ポイント理解(1)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　縮約形・ポイント理解／留学試験対策　聴読解 パターンを知り、ポイントが利けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	日本留学試験　聴解 N1　ポイント理解(2)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　イントネーション・ポイント理解／留学試験対策　聴解・聴読解 パターンを知り、ポイントが聞けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	日本留学試験　聴解 N1　音声、短縮形		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　副詞・概要理解／留学試験対策　聴解・聴読解 パターンを知り、ポイントが聞けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	日本留学試験　聴解 N1　音声、終助詞、イントネーション		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　概要理解 パターンを知り、ポイントが聞けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	N1　概要理解		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　統合理解 パターンを知り、ポイントが聞けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	チェックテスト N1　統合理解		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　即時応答 パターンを知り、ポイントが聞けるようになる。	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	チェックテスト N1　即時応答		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	N1対策　理解度確認	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	模試と解説		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級聴解 ノートテイキングの力をつけ、まとめる(1)	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	QA、表に入れる、要約、書きを中心に口頭発表をする。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	上級聴解 ノートテイキングの力をつけ、まとめる(2)	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	QA、表に入れる、要約、書きを中心に口頭発表をする。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級聴解 ノートテイキングの力をつけ、まとめる(3)	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	内容把握だけではなく、正確に書く、口頭で再現する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級聴解 ノートテイキングの力をつけ、まとめる(4)	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	内容把握だけではなく、正確に書く、口頭で再現し、まとめる。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級聴解 ノートテイキングの力をつけ、まとめる(5)	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	内容把握だけではなく、正確に書く、口頭で再現し、まとめる。		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	聴解・聴読解(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担 当 教 員	中村　絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

上級レベルの聴解力を身につける。進学先につながる聴解力、聞いてわかったことを説明し、まとめることができるようになる。前半は留学試験、能力試験対策を行う。能力試験後はまとまりのある話を聴き、要点をまとめて口頭で伝え、メモを取る、ノートテイキングの力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

素点(定期試験):70%
出席評価点　　:20%
平常評価点　　:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『EJU　聴解・聴読解トレーニング』『N1聴解必修パターン』『合格できる日本語能力試験N1聴解部分』『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解』『聴解発表ワークブック』『ニュースの日本語聴解50』から抜粋、オリジナルハンドアウト使用

《授業外における学習方法》

将来の就職のためには「聞いて話す」「聞いてまとめる」ことは非常に大切です。聴解によるコミュニケーション力を高めるために普段から、日本語を聴く努力をしてください。

《履修に当たっての留意点》

選択問題だけができても将来の仕事では通用しません。全体の流れがわかり、正解のポイントをおさえることを意識してください。聞いてわかる語彙を増やし、進学先につながる日本語を身につけましょう。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級聴解　ノートテイキングの力をつけ、まとめ、関連内容について話し合いができる(6)	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	内容把握だけではなく、本文の構成を聞きながら聞く。ペアやクラス全体でディスカッションを行い、内容をまとめる。		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級聴解　ノートテイキングの力をつけ、まとめ、関連内容について話し合いができる(7)	使用教材から適宜抜粋	授業で聞き取れなかった問題は放課後にもう一度聞き直す。
		各コマにおける授業予定	内容把握だけではなく、本文の構成を聞きながら聞く。ペアやクラス全体でディスカッションを行い、内容をまとめる。		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	視聴覚教材をつかって(1)	使用教材から適宜抜粋	講義の内容に関するところを予習しておく。
		各コマにおける授業予定	医学系の授業を聞き、ノートを取る。		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	視聴覚教材をつかって(2)	使用教材から適宜抜粋	講義の内容に関するところを予習しておく。
		各コマにおける授業予定	医学系の授業を聞き、ノートを取る。		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	視聴覚教材をつかって(3)	使用教材から適宜抜粋	講義の内容に関するところを予習しておく。
		各コマにおける授業予定	医学系の授業を聞き、ノートを取る。		